

令和2年度授業改善推進プラン

東村山市立 秋津東小学校 第6学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策 【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に意欲的に取り組み、定着度も高い。 既習漢字を文章の中で用いることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストを定期的の実施し、定着を図る。 作文するときには、手元に辞書を置かせるとともに、漢字を使うことをはたらきかける。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 事実と考えを区別して文章構成できる児童が多い。 文章を読んで人物相互の関係をつかんだり、必要な情報を見付けたりすることに課題が見られる。 問いの内容を正確にとらえ、適切に答える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むときには、一人→小グループと考えを交流しあい、多面的なものの見方ができるようにするとともに、新たな考えをもつことができるようにする。 いろいろな問題に取り組み、指示語や接続語に注意して内容をとらえたり、文末表現に気を付けて答えを書いたりする練習をする。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 進んで読書をしたり、敬語を使おうとしたりする児童が多いが、課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の時間の確保に努める。 おすすめの本を紹介する。 日常の中で敬語を使う場面を多く設定する。
社会	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 学習時に興味をもって取り組んでいても、知識としての定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 時系列で出来事を確認したり、人物とその業績を関連付けて復習したりする。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書と資料集を中心に、資料の読み取りと情報の整理に繰り返し取り組み、資料から情報を得る力は高まりつつある。 収集した資料の理解と活用する力にはまだ個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業デザインを工夫し、情報を収集・整理・活用する場面を多く設定する。 調べたことを基に話し合う時間を設定する。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 歴史に対する興味・関心をもち、意欲的に学習する児童が多い。 社会的事象を多面的に見ることができず、限定的な解釈をしがちな児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科見学や視聴覚教材を活用し、学習内容と社会的事象と日々の生活を結び付けられるようにする。
算数	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 量感が身に付いておらず、単位変換がスムーズに行えない児童が多い。 既習事項を基に解決する力に課題がある。 計算の正確さや解く速さに個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリル、ベーシックドリル等を活用し基礎学力の定着と共に工夫して解く力を身に付けさせる。 正確さだけでなく速く解く方法も意識させていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の意図を捉え、正確に立式することに課題がある。 導き出した答えの正確さを判断できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線や図で表してから立式することで見通しをもって解決する力を養う。 計算の見積もりを立てること、答えの確かめをするなどの習慣をつける。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 問題が解けることが達成感や楽しさにつながっている。 既習事項を活用して問題を解決することに苦手意識をもつ児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復学習をする中でできる喜びを味わわせる。 日常的に復習内容を扱うことで既習を確認する。児童同士教え合う場を確保し、課題解決の経験を積ませる。
理科	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に関する技能の定着に個人差が大きい。 単元により知識の定着の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の場を多く設け、児童の実感を伴った理解を図る。 プリントや小テスト、視聴覚教材などで補充し、知識の定着を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験を通して思考力を深めている。 実験結果からの考察、予想と結果を関連付けて考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決→予想→実験→観察→結果の分析→考察の流れで授業を展開し、筋道立てて考えられるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 考察の中で出た新たな疑問をもとに、知りたいことを見つけられる児童が増えつつある。 問題解決の方法を考えることに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習やレポート課題で調べたことを友達に伝える機会を設定する。 ペアやグループなどの少人数の話し合いの中で問題を解決する経験を積み、理科学的な問題解決の視点を養う。
音楽	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や曲の特徴に気付くことができる。楽譜を読んで演奏することやリコーダーを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を読む学習を常時行ったり、学習したことを振り返りながら、一人一人に応じた個別指導の時間を設け、スモールステップで定着を図る。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 曲に対する思いや意図が他の児童より弱い子がいる。また、考えることが面倒で、深めることから逃げようとする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いやアイデアを認め合い、表現の高まりを教師が具体的に伝え、共有するようにしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に親しんだり、音楽活動をする楽しさを感じる児童が見られるが、音楽経験においては個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階や実態に合わせて教材を選択し、音楽への興味・関心を高めながら表現の幅を広げていく。
図工	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 絵画については個別に指導が入れば上達するところもにられるが、自己評価が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する用具の使い方を理解し、用途に合わせて安全に使用する。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 表現することが好きな児童が多いが、作品の仕上がりに粘りをみせる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導を行い、自分の思いを表現しようとする意欲を高めるよう声がけしていく。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はいろいろ変わる環境のなかで自分なりの見通しをもってやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって学習できるように、自分なりの計画を立てさせ行動できるようにしていく。

家庭	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫の技能には個人差が大きい。 家庭生活の多様化により、調理実習や裁縫実習の経験が技能として身に付きにくい傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し作業する場を作り、経験を積ませる。個別指導を継続する。 長期休業中に調理実習課題を出し、技能の見直しの機会とする。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の経験が少ない。 学び合いの活動を多くすることにより、学習意欲の向上と理解を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の構成を工夫し、考えを発表する場や課題を振り返る場を設ける。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で、自らの仕事分担のない児童が多い。 家族でのコミュニケーションが図りにくい傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での児童の仕事分担に意欲をもたせ、家庭へも啓発する。 課題を通してコミュニケーションの楽しさや大切さに気付かせ、自ら進んで家庭の仕事に参加し、家庭を大切にしている心情を育てる。
体育	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ボール投げ・走・跳といった基本的な体の使い方を求められる運動において、個人差が大きい。 男女共に握力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験のない運動に対しても、興味をもって取り組めるような授業を行う。 視聴覚教具や教材を活用して、運動を多面的に理解する。 日常的にグーパー体操を行ったり、鉄棒や雲梯、登り棒を使う場面を取り入れたりする。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの課題を意識して取り組んだり、教え合ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で児童が自分の課題をもち、解決策について思考し実践していく学習を取り入れる。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びや体育が好きな児童は多いが、体を動かすことを好まない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス遊びや学年レクを活用して、休み時間にも積極的に体を動かそうとする態度を養う。
外国語	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 習った表現や単語を用いて英語を話したり聞いたりすることができる。 英語を「聞く、話す、書く」ことを正しく行わなければならないという抵抗感をもつ児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を同じ流れで行うこと、既習の単語や表現を繰り返し使うことで基本的な表現に慣れ親しませる。 体験的な学びを増やし、実感を伴った理解につなげる。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを伝え合う経験がまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材、ワークシートなどを活用し、感覚的に外国の文化や言語に触れる機会を作り、日本との共通点や相違点に気付けるようにする。 ペアやグループ活動を取り入れる。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を用いて友達と積極的にコミュニケーション活動をとれる児童もいるが、自信がなく苦手意識の強い児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なコミュニケーション活動の場を取り入れる中で、場や相手に応じたコミュニケーションの図り方を意識させていく。
総合	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料を用いて調べることはできるが、情報の裏付けを得たり、そこから深めたり広げたりすることができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な課題をインターネットや図書を使って個人で迫る機会を設ける。内容の関連付けや広げ方については、具体的な例示をしながら進めていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことから自分の考えをもつことはできるが、主体的に追究する力は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定や課題解決の手順を個々に明確にさせる。また、書き方やまとめ方もできる限り個別に対応していく。 少人数での活動を通してお互いの課題解決方法を話し合い、考えを深め合えるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の関連付けがうまくできず、学習を広げていく活動に消極的な様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画は児童の実態や地域の変化に伴って学習方法、活用方法を見直しながら進め、個々に合わせた助言をしながら学習を広げるよう指導する。